特別の教育課程についての自己評価・学校運営委員会による評価

１．学校評価（教員）

（１）「プロジェクトタイム」

・令和３年度は各学年の探究課題に沿って、体験活動や聞き取り調査をしたり、外部人材の活用により学びを深めたりして、それぞれの課題に向かっておおむね活動することができた。コロナ禍ではあるが、地域人材や専門的経験知識を持った講師を招聘し活用することにより、より探究的な視点で探究活動を行うことができた。

（２）「コミュニケーションタイム」

・ALT や外部人材との交流を授業に取り入れ,児童・生徒が学習した知識及び技能を用いて自分の思いなどを多様な方法で発表する場面を設けたり、英語で発表する機会を設けたりするなど多様な表現、発表を心がけた。
・低学年児童においても進んで英語で挨拶をしたり,ALT の先生に話しかけたりするなど,日常的にコミュニケーションを図ろうとしている姿が見られた。

２．学校運営委員会評価

（１）「プロジェクトタイム」

・地域人材が講師を務める自然体験と探究プログラムや発信した成果の報告によると、計画されたプロジェクトが、円滑に運営できていることは理解できた。地域人材や専門的経験知識を持った講師を招聘し活用することは、今後も推進していってほしい。また、児童生徒自身が、探究し発信していくことによる効果を今後も見せて欲しい。

（２）「コミュニケーションタイム」

・低学年児童における英語活動を参観し、１年生からの英語活動で日常的にコミュニケーションを図ろうとしている姿が見られ、今後９年間を通して英語によるコミュニケーション力が一層高まるのではと期待している。また、英検等の検定にも役立っているのか、今後の活動の様子も継続してみていきたい。